

校長先生の日記③③

もう師走になってしまいました

2学期も残りわずかとなりました。12月の登校日は、残り15日となりました。

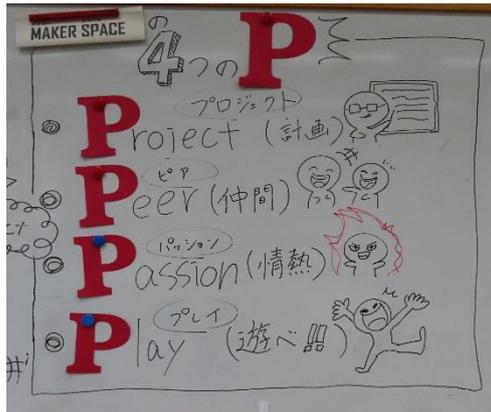
猛威を振るっていたインフルエンザも収まり、期末テストも終わり、学校の中は、少しゆったりとした雰囲気となっています。受験を控えた9年生は、これからが正念場ですが、きっと自分の進む道をしっかり見極め、頑張ってくれることでしょう。そんな9年生に代わって、学校を背負って立つ8年生には、新しい児童生徒会役員も決まり、新たな緊張感が生まれています。

個別懇談会が始まり、子どもたちの成長を保護者のみなさんにお伝えできること、本当に嬉しく思います。

そんな成長を自信に変えて、3学期も頑張れるための残りの日々ができるよう、大切にすごしたいと思います。

メーカーズスペースってどんなところ？

本校には、信州大学教育学部の院生が研究している「メーカーズスペース」という場所があります。元は、パソコン室でした。今は、一人一端末になったので、パソコン室は空きの教室になっていました。そのパソコン教室を片付け、大学院生の西澤さんが、子どもたちにプログラミングを教えてくれたり、物作りを教えてくれたり、先生方への技術指導やICTの活用の相談などにもものってもらったりする部屋に生まれ変わっています。廊下に西澤さんが来る日が記入されており、そんな日は休み時間に子どもたちが集まってきて、話をしたり、物作りをしたり、思い思いに過ごしています。メーカーズスペースでは、やってみたいが実現したり、異年齢の友だちができたりと、メリットは大きいです。西澤さんはこの成果を卒業論文としてまとめるそうです。来年度も西澤さんの後輩が、このスペースを引き継いで研究進めるとのことです。子どもたちにとっての居心地のいい場所は、来年度もそこにあってくれそうです。



俳句教室が行われました

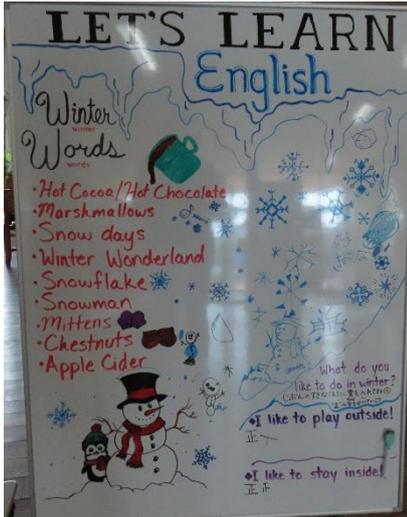
一茶のふるさとである信濃町。特色ある教育として「俳句教室」があります。毎年7年生がこの教室で学びます。講師の先生は、大塚凱先生。俳句甲子園の優勝経験者で、東大を卒業されているそうです。

7年生の授業では、「俳句は2種類に分類して考えるとわかりやすい」ということを教えていただきました。ポイントは「季語」で、季語そのものを独自の見方で描きなおす「一物仕立て」と季語とある事柄を組み合わせて描く「取り合わせ」の2種類の句に分類するそうです。

生徒たちは「取り合わせ」の

方法で、俳句づくりに挑戦していました。さらに、選んだ「季語」から連想される言葉の中でも、みんなが連想する言葉はあまり使わず、一見関係ないように思うことと組み合わせることで、様々な思いを表現できるのだそうです。聞いているとなるほどと思って「できるかも」と思うのですが、やってみるとやっぱり難しいです。先生は、たくさんの句を読んだそうです。そうやって勉強して俳句を作れるようになったそうです。目に見える情景を後から思い出して句を読むことが多いそうです。信濃町について句ができれば教えてくださいとお願いしました。さていい句はできたかな。





English Board を作りたいんです！

ALT のソマー先生とアリーア先生が、こんな素敵な EnglishBoard を作ってくれました。はじめは EnglishBoard とはどんなものだろうと分からなかったのですが、2人がどうしてもやってみようというので、作ってもらってみると、なんて素敵なものなのでしょう！2人ともアニメが好きということで、絵もとっても上手です。Boardの中には、その季節や行事に関係する単語が書かれていたり、アンケートがあったりもします。子どもたちが楽しんで英語に触れ、自然と英語を覚えてくれたら嬉しいという二人の願いが詰まっているのではないかと思います。「教えて」「覚えさせる」英語は、嫌いになること間違いなしです。小さな頃から自然と英語に触れて、楽しく身に付けて、使いこなせるようになってくれたらなと思います。この EnglishBoard はそんな願いの実現に一役も二役もかってくれそうです。




4年生の育てた餅米が、おこわになって給食に登場！

4年生が心を込めて育ててくれた餅米が収穫され、なんと「1等米」という素晴らしい餅米の評価をいただきました。その餅米を使って今日は、給食センターのみなさんがおこわを作ってくださいました。昨日の夜から餅米を水に浸し、センターにある蒸し器で蒸し、具を入れてまた蒸してと手をかけての調理だったようです。しかも全員分は1回で蒸せないので、2回に分けての調理だったようです。

おこわは、やわらかくて、もちもちでぴっぴか！もう最高においしかったです。まずは、こんなおいしい餅米を育ててくれた4年生のみなさん、ありがとうございました。そして心込めておこわを作ってくださいました給食センターのみなさんありがとうございました。これを書いている時も、口の中におこわの味がよみがえってきて、「もう1回食べたいな」という気持ちになります！あーもう1度食べたい！